

2025年1月12日（日）「人生に隠された宝」

箴言 2:1-6

- 1 子よ、もし私の言葉を受け入れ、私の戒めをあなたの内に納め、
- 2 知恵に耳を傾け、英知に心を向けるなら、
- 3 さらに分別に呼びかけ、英知に向かって声を上げ、
- 4 銀を求めるようにそれを尋ね、隠された宝を求めるようにそれを探すなら、
- 5 その時、あなたは主を畏れることを見極め、神の知識を見いだすだろう。
- 6 まさしく、主が知恵を授け、主の口から知識と英知が出る。

### 【序論】

今日は「成人祝福礼拝」の恵みに共にあずかっております。幼い頃から教会とのつながりを持って生きてこられたKUさんが、成人して社会に対する責任ある一人の人間となられる。今日に至るご成長を喜び、これから先の人生の祝福を願い、またその道のりにおいて直面するかもしれない様々な逆境を乗り越えていくための知恵を聖書から一緒に学ぶことができると願っています。皆様は子どもの頃に「宝探し」をしたことがあるでしょうか。もしあるなら、それはきっと楽しい経験であったと思います。「お楽しみ」としての宝探しは、大人があらかじめ隠した宝を子どもたちが一生懸命探すことが多いでしょう。それを見つけた子どもたちの喜ぶ姿を大人は目を細めて見ている。しかし、せっかく隠した宝が見つけれないまま忘れられてしまうこともあります（イースターの卵が一年後に見つかったことがありました）。知恵を探すことは「人生」という畑に隠された宝を探すようなものです。その宝は神様があらかじめ一人ひとりのために埋めてくださっていますが、そんなものがあるということも知らないまま一生を終えていく人もいます。それは懸命に探さなくては見つけることができないものであり、探し求めれば必ず見つかるものでもあります。

### 【本論】

#### 本論 1. 知恵とは何か

箴言のキーワードは「知恵」であり、それは親から子どもに伝達されるべきものとされています。「子よ」と語りかけられていますが、実際の親子関係とも、次の世代を担う王子に向けての王の進言と見ることもできます。

知恵とは何でしょう。それは、「何が真実で正しく公正であるかを判断する力と知識」のことです。それを判断するための基準を自分の内に持つということ。基準があやふやでは、間違っただけのものが入ってきたときに見極めることができません。あるいは、自分の揺れ動く感情を判断の基準にしてしまったり、世にある多くの惑わしに騙されてしまう危険性もあり

ます。人を欺く偽りの声を見抜くには、真理が何であるかを知っていなくてはなりません。この「知恵」について、もう少し深掘りしてみたいと思います。

今日の箇所には「知恵」と類似した言葉がいくつか登場します。「知恵」「英知」「分別」「知識」と、少しずつニュアンスを変えて語られていますが、「知恵」を別の角度から見ていけると言うことができるでしょう。これらの言葉の意味を調べてみました。

「知恵(חָכְמָה)」…思慮分別

「英知(תְּבוּנָה)」…理解、知性

「分別(בְּיָדָה)」…理解、識別

「知識(דַּעַת)」…理解、識別力

どれも大きな意味の違いはありません。しかし、それを心に持っているとき、多くの場面でその人を守るものとなるのです。人は生涯を通じて様々な選択が求められますが、その選択に当たって正しい道を選び取る必要がある。時間をかけて考えることのできる種類の選択もあれば、瞬発力が求められるものもあります。いずれにしても、正しいものを見極める感覚は常に研ぎ澄まされている必要があるでしょう。

私自身の人生を振り返ると、若かりし頃、周りの人のことを考えないで行動していた愚かな自分の姿が思い出されることがあります。そういう行動は、大切な人間関係を壊すものとなっていました。その当時は気づいていなかったのです。

知恵の性質として、思慮分別も、知性も、識別力も、知識も、どれもが継続的に成長し磨きがかけていく面があります。そして、以前には見えていなかった自分の姿が見えるようになると、罪深い選択をしてしまったことに気づき、その失敗から学んで回復していくことができるのです。失敗は失敗のままでは終わらず、それを通して人格的に整えられていく。自分の中でどこかバランスを欠いている部分が見つかるとき、その根本的な原因を見つけ出し、真正面からそれと向き合う必要があります。自分でも気づいていなかった心の傷が発見されるとき、人生が大きく変わる可能性が出てきているのです。

## 本論 2. 宝があると信じて採掘する

**銀を求めるようにそれを尋ね、隠された宝を求めるようにそれを探すなら、その時、あなたは主を畏れることを見極め、神の知識を見いだすだろう。(2:4-5)**

この「知恵」は、熱心に探し求めなければ見つからないと言われます。神様が一人びとりの「人生」という畑に隠しておられる宝であり、それが発見されることを願っておられる。その宝を掘り当てるためには、人は努力をしなければなりません。旧約聖書の知恵文学の中には、古代におけるマイニングの様子を描いた箇所があります。

銀には鉱山があり、金には精錬する場所がある。鉄は土から取り出され、石を溶かすと、銅が取り出される。人は闇の果てに身を置いて、あらゆる地の極みまで訪ね、暗闇と死の陰の石を探し出す。住まいから離れて坑道を掘り、道を行く人々から忘れられ、地下深く身をつり下げ、揺れている。食物を産み出す大地も、地下では火のように熱く沸き返っている。鉱石はラピスラズリのある場所にある。そこには金の粒もある。猛禽もその道を知らず、隼はやぶさの目もそれを見つけることはできない。誇り高い獣たちもそれを踏まず、獅子もそこを通らない。人は硬い岩に手を伸ばし、山々を根元から覆す。岩に坑道を掘り、その目は価値あるものを見つける。流れをせき止め、その隠されたものに光を当てる。(ヨブ 28:1-11)

ここでは鉱山から金属を掘り出す技術が描かれています。「金」「銀」「銅」「鉄」「ラピスラズリ」などの鉱石は、古代社会でも用途別に重要視されていました。それらは、掘らなければ見つかることはなく、放っておけば何の価値も持たないまま地に埋まった状態であり続けるでしょう。しかし、人がそれを欲しがり、ここにあるのではないかと見定め、適切な技術で掘り進んでいくなれば、それは見つかる可能性が出てきます。

神の知恵もまた同様であり、人が熱心に探し求めるとき、宝は発見されます。その宝はどこに埋まっているのか。聖書のことばの中にあるのです。まだ聖書を通読したことがなければ、一度は読んでみましょう。しかし、漫然と読むのではなく、「必ず宝を発見しよう」「きっと埋まっている」という熱意と確信をもって読むのです。そこに「知恵」が書かれていると信じて読む。読む人の思いの強さによって、宝を発見できるかどうかは変わってくるからです。

人は何かに取り組むとき、どういう心で臨むかによって、全く違った結果を見ることがあります。私が学生の頃、ある授業を担当しておられた先生が少し変わった人で、人によってはちょっと合わないだろうな…という懸念を覚えました。案の定、ある女子学生は先生のことを毛嫌いし、授業そのものを拒否していました。一方、その先生の良さを見つけようと努力した学生たちもいて、彼らはその授業から精一杯のことを学び取りました。半年後の結果が全く異なるものとなったことは、想像に難くないでしょう。このように、どういう心で物事に取り組むかによって、宝を発見できるかどうかは変わってくるのです。望ましくない環境であったとしても精一杯取り組む、これも知恵の一つと言えらると思います。

### 本論 3. 主を畏れるという知恵

**まさしく、主が知恵を授け、主の口から知識と英知が出る。(2:6)**

最後に、知恵の本質をより明確にしましょう。聖書の中に隠された「神の知恵」「宝」とは、神を畏れることなのです。神を畏れる生き方とは、まず、自分が神によって造られた存在であることを認めるところから始まります。神が自分を最高傑作としてお造りくださった。そして、その傑作を通して何事か御心を世に実現しようとしておられる。その神との関係のうちに人生を構築していくならば、その人を通して神の御業が現れるのです。自分がこうしたいと考える以上に、神が自分を通して何をしようとしておられるのかという視点を持つこ

とができるようになります。物事を選択するとき、何かを行動に移すとき、神がそれを喜ばれるかどうかを指標とすることができます。その視点で道を選んでいくとき、必ず最良の結果を得ることになるでしょう。まるで自動ドアが開くかのように、まだ見ぬ人生の扉が次々と開かれていくのを見るようになります。その人の行くところはみな栄えるでしょう。

神を恐れつつ聖書を読むとき、自分には救いが必要であるということを知るようになります。聖書登場人物の中で、神との良い関係を構築しているのは、罪の自覚を持っている人であることが分かります。彼らは、へりくだって罪の赦しを求め、そういう自分をも永遠に捨てることのない神の御手に自らの人生を委ねています。そして、その人生全体を神が祝福し、不思議な御業が彼らを通して行なわれるのをその目で見ます。

知恵とは、神が用意してくださっている宝です。聖書という一冊の書物の中に埋蔵された銀、神との関係という宝を見出すことができるのです。

私の人生もまた、神との出会いによって変わりました。基準のなかった人生に、揺るがぬ基準が与えられました。神と共に歩む中で、どれほど多くの罪から守られてきたか分かりません。人生の若い時代に神を見出すことができるならば、それは幸いなことです。

#### 【結論】

この成人祝福礼拝において、神との関係という宝を聖書の中に求めてくださればと願います。人生の土台を何によって築くべきか。それは、学歴でも家柄でも、金銭でもなく、神を畏れる心です。この一点に集中して生きていくとき、あらゆる場面でふさわしい選択ができることでしょう。そして、その人生の扉は神ご自身が開いていってくださるでしょう。

#### 【祈り】

私たちの人生に宝を隠してくださっている天の父なる神様。その宝は、聖書が教えているまことの知恵、神を畏れて生きるということです。これを見つけることを神ご自身が願っておられます。聖書のうちにそれを見出すことができますように。このたび成人されたKUさんの人生を祝福し、あなたとの良い関係の中で、あらゆる場面で適切な選択をしていく知恵をもって歩いていくことができるよう導いてください。

#### 【祝祷】

仰ぎ願わくは、  
各々の人生に「知恵」という宝を隠し、それが発見されることを願い給う、父なる神の愛、  
神と人との関係をとりなし、契約関係へと導き給う、主イエス・キリストの恵み、  
神を畏れるところに、全き基準と聖き選択とをもたらし給う、聖霊の親しき交わりが、  
あなたがた一同の上に、限りなくあらんことを。